

第三者委員の役割

- (1) 入所児童から一時保護所の生活等に関する相談の直接受付
- (2) 一時保護所の生活等に関して、権利擁護や福祉サービスの向上の視点から、入所児童、一時保護所及び児童相談所に対して助言
- (3) 一時保護所の日常的な活動状況の把握

活動の概要

令和2年度は4名の第三者委員が、月に一度、担当の一時保護所に出向き、主に次の活動を実施しました。

- 児童との面談
- 児童との昼食や日課活動への参加
- 所長、課長代理との意見交換

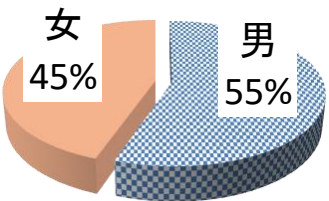
児童からの相談の特徴

令和2年度実績

総相談件数 739件
相談児童数 444名

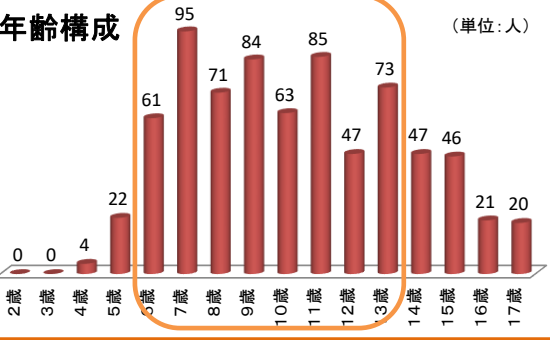
相談児童数（月別の実数合計）は444名であり、
総相談件数（一人の児童が複数の相談した場合に1件ずつ計上）は739件。
1所の月平均相談件数は約9件。

男女比



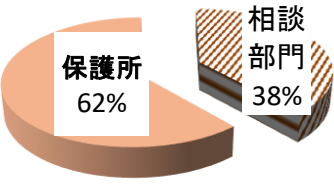
やや男児の相談が多い傾向

年齢構成



年齢別では6～13歳が多い

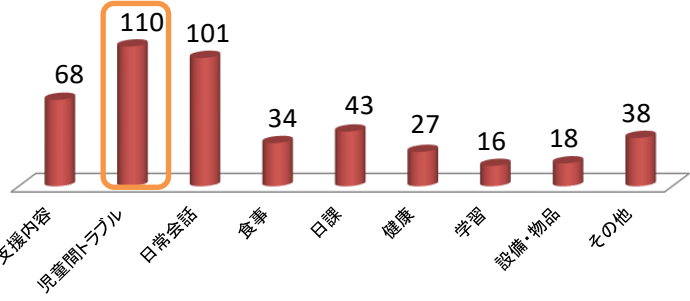
相談の種別



保護所に関する相談が6割

保護所の相談内容

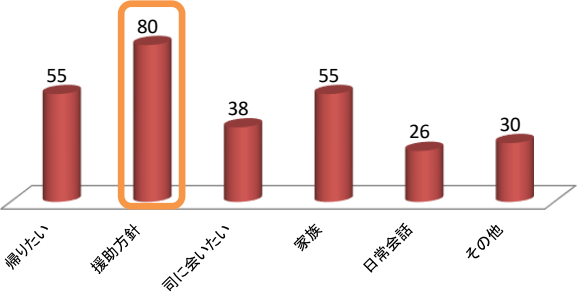
（単位：件）



児童間トラブルに関する相談が最も多い

ケースワークの相談内容

（単位：件）



援助方針についての相談が最も多い

第三者委員からの主な意見等

- (1) プライバシーに関する会話について
 - ・会話は一切ダメと認識している児童が多い。
 - ・児童に誤解を与えないよう、プライバシーに関わる事項が何なのかを、入所時だけではなく生活の中でも丁寧に説明していただきたい。
 - (改善例) 会話が禁止でないことを児童に説明するよう、引継ぎを利用して全職員に周知した。
- (2) 児童間のトラブルについて
 - ・他児との関係性について気を付けてみていただきたい。
 - (改善例) 担当職員がすぐに話をして、居室や食堂の席を変更した。
- (3) 保護所における生活の充実について
 - ・児童がリフレッシュできるよう外出の頻度を増やしてほしい。
 - ・新しい漫画の購入を検討してほしい。
 - (改善例)
 - ・速やかに相談部門に伝え、担当児童福祉司と外出をした。
 - ・子供アンケートも活用し、漫画等の購入については、順次対応している。
- (4) 児童が抱える今後の不安について
 - ・家族のことや今後の進路等について不安を感じている児童が多いため、面談をしてほしい。
 - (改善例) 速やかに相談部門に伝え、担当児童福祉司が面会を実施した。

令和3年度における東京都の取組

- 児童が安全・安心な生活を送れるよう、日頃から職員が児童を見守り、児童の特性に応じた支援を行うとともに、第三者委員の毎月の活動、アンケートの実施、意見箱の設置を通して児童の意見や要望を把握し、支援の改善に努めていきます。
- 児童の心理ケアの充実を図るため、一時保護所心理指導担当課長代理を3名から4名に増員しました。
- 児童の学習環境の充実を図るため、運動（リトミック）・音楽といった専門性の高い教科の外部講師を導入するとともに、タブレット及び学習アプリを活用し、児童のニーズに合った学習を提供していきます。
- 児童の余暇活動・外出の充実のため、民間バスの借上げを行い、外出先の選択肢を広げるとともに、児童の気分転換を図ります。
- 「東京都一時保護要領」も踏まえ、「東京都児童相談所一時保護所支援改善検討会報告書」にある具体的な取組が順次実施できるよう、「一時保護所支援改善検討会」を引き続き実施し、一時保護所の支援向上のための検討を行う。